

宇都宮市立宝木小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学力改善プランとの関連

(1)子どもの学ぶ意欲・学習習慣

○「学習に対して、自分から進んで学習に取り組んでいる」の質問に対しての肯定割合は、県の平均と比べて低い。昨年から児童の様子と比べて肯定割合は増えている。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という項目においても昨年は、県平均よりやや低かったが、本年度はほぼ同じになっている。そのことが、「自分は勉強がよくできる方だ」という肯定割合が県よりやや高くなっている要因になっていると考えられる。児童の疑問や調べたいという気持ちを大切に学ぶ意欲を高めた学習展開の成果が表れている。

●「自分にはよいところがあると思う」の質問に対する肯定割合は、県とほぼ同じではあるが、昨年と比べるとやや低くなっている。「自分はクラスの人の役に立っている」の質問も昨年より低くなっている。自己を見つめる時期に入る子どもたちなので、学習場面だけでなく、学校生活全般でタイミングよく子どもたちをほめ、自己肯定感を高めていきたい。

(2)教師の指導力

○「授業では、授業の目標が示されている」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業のノートには、学習の目標とまとめを書いている」において、県の肯定割合より低いものの、昨年より肯定割合は増えている。児童の振り返り学習が、児童の学びにつながることを、教師が意識して取り組んだ成果と考える。今後もさらに定着できるよう取り組みたい。

(3)保護者の理解・協力

○「家の人と学習について話をしている」の質問は県とほぼ同じであるが、昨年よりも肯定割合が多くなっている。保護者が子どもたちの学習に関心を持ち、時間をとっていることが分かる。学校でも、「学習だより」を発行したり、「学習がんばり週間」を実施し、保護者の協力を得たりして学習習慣が身に付くようにしている。

●「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた学習をしている」「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」で県より低い。1日当たりの学習時間で見ると、個人差が出てきている。3時間以上学習する割合は県より高いが、1時間以上から2時間、30分以上、30分より、全くしないで県より上回っている。家庭学習の習慣化、学年プラス10分の継続できるよう支援の仕方を考える必要がある。

宇都宮市立宝木小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・子どもの学ぶ意欲を高める指導の工夫	公開授業を定期的実施し、授業を見合い語り合う機会を設けることで、子どもの学ぶ意欲を高める指導の工夫について日々研究、実践している。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の質問に対し5年生の児童の肯定割合が6ポイント、「勉強していて面白いと思うことがある」についても5ポイント昨年度より増加しているものの、以前県の平均よりは下回っている。
・授業での「目標の共有化」と「振り返り活動」の効果的な実施	掲示物「宝木の振り返り」を活用し、本時の目標に対する「振り返り活動」を授業の中で効果的に実施できるようにしている。	「授業では目標が示されている」の5年生の肯定割合は7ポイント、「振り返る活動をよくしているか」は12ポイント増加しているが、まだ県の平均には達しておらず、「振り返り」については県の平均を大きく下回っている。
・家庭学習の習慣化・継続化 手立てや取り組み方の提示	家庭学習の習慣化が図れるよう、家庭と連携した学習がんばり週間を年2回実施している。また、家庭学習の進め方を配付し、「わかる。できる・覚える」の3ステップでのやり方を明示し効果的に取り組めるようにしている。	「家の人と学習について話をしている」の5年生の肯定割合は県の平均を上回っているが4年生は下回っている。「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問では上位層と下位層で時間のばらつきが見られ、学習時間の二極化がみられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査から、簡単な計算や漢字の読み書きなど基礎的な学力の定着に課題がみられる。	ステップアップテストの確実な実施と各種テストにより基礎学力の定着を図る。	・家庭学習と連携しながら漢字と計算のステップアップテストを実施し、確実に身に付くまで指導を徹底していく。また、定着を図るため、既習事項については繰り返し復習していく。
・教科に関する調査から、長文の問題や記述式の問題の解答に無解答が目立ち、問題の意図を読み取って、自分の考えを文章で書くことに課題がみられる。	課題の意味を読み取り、自分の考えを持てるよう、自分の考えを話したり、書いたりする機会を意図的に授業中に設けていく。	・児童が自分の考えをもてるような課題設定や発問を工夫する。 ・自分の考えを話す機会として、学び合い(ペア学習・グループ学習)を効果的に取り入れることで、自分の考えを言語化できるようにする。